足助とつながる情報誌

あすけ通信

２０２２年
７月発行
40

悲恋の滝『お姫滝』

開校１５０年記念事業紹介
萩野小学校

足助のプロジェクト紹介
Gonzore TRAIL

読者のみなさんの“声”

悲恋の滝『お姫滝』

怒田沢（ぬたざわ）地区にお姫滝という滝があります。

南北朝時代、京での争いから平勝親王という方がこの地に逃れてきました。逗留（とうりゅう）中、地元の一人の女性が平勝親王の身の回りのお世話をしていました。やがて討幕の為に京へ戻った平勝親王でしたが、討幕の計画が漏れ、自刃に追い込まれてしまいます。諸説ありますが、そのことを伝え聞いたその女性は、悲しみのあまりこの滝に身を投げたと伝わっています。

そんな悲しい物語のあった滝ですが、清澄な空気に包まれ、とても癒されました。（鈴木悠太）

Google マップ

開校１５０年記念事業紹介　萩野小学校

読者アンケートで、開校１５０年を迎える小学校を取材してはというご意見をいただきましたので、今回は香嵐渓から東へ４ｋｍほどの地点にある萩野小学校（令和４年４月１日現在児童数２１名）の開校１５０年記念事業を紹介します。令和３年６月に、萩野小学校開校１５０年記念「萩野ふれあい YEAR2022 実行委員会」が設立され、地域住民、小学校、ＰＴＡで記念事業に取り組まれているそうです。吉田修校長先生に記念事業について伺い、校内を案内してもらいました。

萩野小学校の特色ある活動は？

萩野子供歌舞伎をやっていて３６年目になります。ただ、児童数の減少により、今年度の１５０年を区切りにしようと進めている段階です。

もう一つが、すぐ近くにある三角山の登山です。４月と１月にやっていて、２０年目になります。４ 月は今年度の目標、１月は将来の夢を頂上から学校を見下ろしながら叫びます。

読書講演会に来ていただいたのを縁に、作家の阿部夏丸さん（豊田市在住）を講師に迎え、足助川で川遊びをする「川に親しむ会」を実施して１０年目になります。

新たな取り組みはありますか？

米・醤油づくりを昨年度からはじめました。新型コロナの影響で、なかなか出かけることができなくなったときに、子どもたちのために何ができるかと考えて立ち上げました。身近にある良いものを見直そうということで、地域の豊かな自然に親しみ、地域の方々との交流を深めることがねらいです。

開校１５０年記念事業はどのようなものですか？

１１月１２日（土）の学芸会終了後に記念式典、アトラクション（ハラプロジェクトによる萩野を題材にした歌舞伎公演）、交流会（親睦会）を開催します。記念誌は、萩野学区の歴史や自然を網羅するものにしようと制作中です。

また、例年行っている学校行事に地域の方に参加してもらえるようにします。４月の三角山登山も地域から参加者を募って『萩野さんぽ』として、登りながら植物観察をしました。萩野小学校内の教室（ふるさとルーム）では、地域の歴史や自然に関わる掲示物を常設展示し開放します。

記念誌はどういう内容になりますか？

歴史と文化について、萩野学区の縄文遺跡や中馬街道のこと、萩野に伝わる民話や伝説、聞き書きなどを集めています。自然については、季節の花々や野生動物の写真を掲載します。阿部夏丸さんにも、足助川の魚について、イラストや写真の提供、寄稿を依頼しています。子どもたちだけでなく、地域の方にも必要なときに手に取って地域の魅力を再発見してもらえるようなものにしたいと思っています。（髙木伸泰）

2階から見下ろしながら1階のランチホールについて説明してくださっている吉田修校長先生。

醤油づくりに取り組む子どもたち。春先に仕込んで、定期的に天地返しを行って、冬に醤油を絞る。

4月に実施した『三角山登山&萩野さんぽ』で今年度の目標を叫ぶ子どもたち。

唐箕（とうみ）、足踏み脱穀機、千歯こきなど、昨年度からはじめた米作りに使う昔ながらの道具たち。

開校150年記念事業の常設展示（ふるさとルーム）。ベンチは旧校舎の階段を再利用したもの。

広々とした2階のワークスペースと図書コーナー。児童数21名のため、ここで集会を行うことができる。

ステンドグラスが印象的なランチホール。音楽室を兼ねたステージが併設されており、入学式・卒業式もここで行われる。

川のせせらぎを聞きながら、給食を食べることができるテラス席。春には満開の桜を楽しめる。

【足助のプロジェクト紹介】

Gonzore TRAIL（ゴンゾレ トレイル）

駆ける子どもの笑い声、ざわめく木漏れ日、渓流の水の冷たさ、落ち葉と土の香り……人里離れた山の中、あの特別な空気感を伝えるにはどのような言葉を選べばよいのだろうかと思い返しながら、この記事を書き進めている。

香嵐渓から東へ車で20分。御内町（みうちちょう）の山深く分け入った場所に広がる「Gonzore TRAIL」のフィールドはイベント開催時のみ足を踏み入れることができる。

「Gonzore TRAIL」は美しい山々の中で暮らすことの楽しさや多様性に興味を持ってくれる人と交流ができる場所を作りたいという思いから、2年前に地域住民がスタートさせた活動だ。森の坐禅会やファシリテーターによるワークショップなど山の中での体験を通して、御内の魅力を伝えている。イベントには市内外から家族による参加者を中心とし、地域住民も一緒に交流することでこの土地のことを深く知る機会を作っている。

今回、取材で山歩きイベントに同行したときも、山道の奥に広がったフィールドで、山遊びをする親子の笑い声が広がっていた。このフィールドも、全面を覆っていたスズタケの除去や枯れ木の伐採など、地域住民や関係者が協力して森林整備を進めてきた結果だ。自然と暮らすには、多くの労力が必要になる。だが、その中でしか得られない視野や感覚、人との関係性があるのではと思わされた。

足助の中でも特に山深いこの地域で定住者を増やすためのプロジェクト。「この土地を体感する機会を作り続けることで、御内の空気感が大好きという人との出会いが増えていけば」という言葉のとおり、ひとつひとつの積み重ねがこの地域の未来につながっている。

活動状況やイベント開催情報は、フェイスブック･インスタグラムで発信している。新しい気づきを多くの人に体感してほしい。（川口純）

メール：gonzoretrail@gmail.com
フェイスブック：https://www.facebook.com/gonzoretrail/

フェイスブック

読者のみなさんの声をご紹介

本号では以前いただいた読者アンケートによるリクエストにお応えし、萩野小学校開校150年記念事業とGonzore TRAILを取材しました。今回も読者アンケートをいただいているので紹介します！QRコードでスマホからアンケートに記入できますので、是非お送りください。

アンケート記入

・表紙（足助発祥の地、黍生山）:足助には何度も足を運んでいますが、黍生山へは行ったことがありません。歴史を知って山頂からの眺めを楽しんでみたいです。／自然豊かな感じが素敵です。人の笑顔があると温かみを感じさせると思います。
・あすっこ紹介:若いおふたりの丁寧な暮らしがよく伝わりました。田舎暮らしを考えている方々の参考になるでしょうね。／足助で暮らしていても、豊田市街や名古屋で仕事をしている人をフィーチャーすると興味がわく層が増えるかもしれないですね。
・足助の名スポット（Frank the 539）:行ってみます。／重伝建10周年事業実行委員会が、ひとまず3月で終了するので、そこにかかわる人にスポットをあてると名スポットが出てくるかもしれません。
・その他、取材先:いつも楽しく拝読させていただいています。ありがとうございます。／おいでんトレイル（栃本）

発行：あすけ通信編集委員会事務局　豊田市役所足助支所内　電話：0565-62-0601　E-mail：asuketsushin@city.toyota.aichi.jp